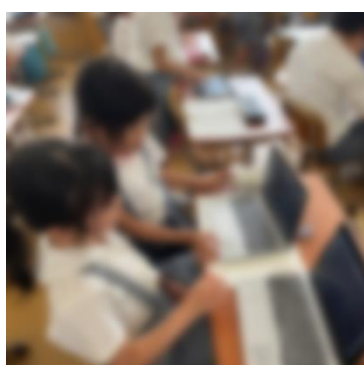


# 令和5年度佐賀大学教育学部 附属小学校教育研究発表会

社会科

当日資料



堀元 公幹

本田 隆

2023年7月25日(火)

公開授業Ⅳ： 8:45～9:30 3年3組教室

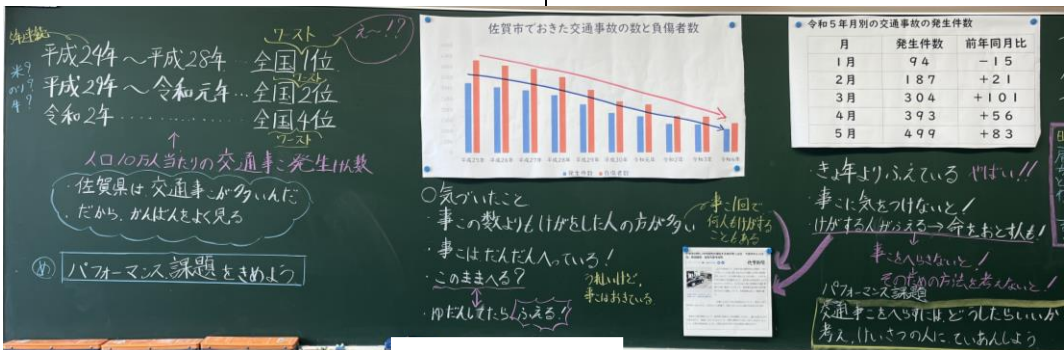
公開授業Ⅴ： 9:50～10:35 4年1組教室

分科会③： 10:50～12:00 4年1組教室



佐賀大学教育学部  
附属小学校

本時までの流れ

段階	時	主な学習活動 (○)、児童の様子等 (※)	教師の働きかけ (○)、児童の言葉 (【 】)																										
つかむ	1	<p>○佐賀市内における交通事故の発生件数の推移が分かる棒グラフの資料を見て、気付いたことを書く。</p> <p>※10年間減少していた佐賀市内における交通事故発生件数が、令和5年度になり増加傾向にあるという現状に驚き、「どうにかしなければ」と自分事の問題として課題に向かおうとする意欲が高まった。</p> <p>○パフォーマンス課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>佐賀市の交通事故をへらすには、どうしたらいいか考え、警察の人に提案しよう。</p> </div> <p>※資料から危機感を抱いていたことで、想定していたパフォーマンス課題に近い言葉が児童から出され、その後に提示した佐賀南署交通課の方(以下、LP)からの手紙によって、交通事故を減らしたいという児童の意欲がさらに高まった。</p> <p>※ほとんどの児童が交通事故を減らさなければいけないという切実感を感じていることが振り返りから読み取れる。また、「佐賀市の交通事故を減らすために、プラン作りをしなければいけないと思いませんか」という質問に対して、全員が肯定的な回答をしていた(表2)。つまり、佐賀市内における交通事故の多さを身近な問題としてとらえ、自分事として考えようとし始めていると言える。単元の1時目にパフォーマンス課題との出会わせ方を工夫することで、児童に社会的問題を自分のこととして十分に捉えさせることができ、その後の主体的な学びが期待できるようになった。</p> <p style="text-align: center;">表2 児童の意識調査(1時)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>とても思う</td> <td>少し思う</td> <td>あまり思わない</td> <td>全く思わない</td> </tr> <tr> <td>19人</td> <td>15人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </table>	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない	19人	15人	0人	0人	<p>○現実の社会的問題に出合わせるために、過去10年間の佐賀市内における交通事故発生件数の資料(図1)と令和5年の月別(1月~5月)の交通事故発生件数の資料(表1)を提示した。</p> <div style="text-align: center;">  <p>図1 佐賀市内における交通事故の発生件数</p> <p>表1 令和5年度の月別の交通事故発生件数</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>発生件数</th> <th>前年同月比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月</td> <td>94</td> <td>-15</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>187</td> <td>+21</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>304</td> <td>+101</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>393</td> <td>+56</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>499</td> <td>+83</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【児童の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10年間減っていたから今年も減っていると思った。みんな油断しているんじゃない?</li> <li>・事故を減らさないと、けがをする人や命を落とす人がふえてしまうよ!</li> </ul> </div> <p>○児童の危機意識が高まったところで、LPからの手紙(3年3組のみんなに、佐賀市における交通事故を減らすためのプランを考えて提案してほしい)を提示した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【児童の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年より減っているのは嬉しいけど、全国ワーストレベルは悲しい。</li> <li>・こんなに事故が起きているとは思わなかった。</li> <li>・交通事故を減らす方法を考えて、1件でも多く減らしたいです。</li> </ul> </div>	月	発生件数	前年同月比	1月	94	-15	2月	187	+21	3月	304	+101	4月	393	+56	5月	499	+83
	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない																									
19人	15人	0人	0人																										
月	発生件数	前年同月比																											
1月	94	-15																											
2月	187	+21																											
3月	304	+101																											
4月	393	+56																											
5月	499	+83																											
	<div style="text-align: center;">  <p>写真1 1時目の板書</p> </div>																												

2 ○一人一人が考えた交通事故に対する疑問や気付いたことをつなぎ、学級で1つのイメージマップ(写真2)を作る。  
○イメージマップを基に学習計画をつくる。  
※イメージマップを作成したことで、今後の見通しをもつことができていた。

○児童の思いをもとに学習計画を立てるために、ノートに記述したことや、友達の意見を聞いて思いついたことからイメージマップを作った。また、類似した内容を線で繋ぎ、見出しを付けることで、見通しが持てるようにした。

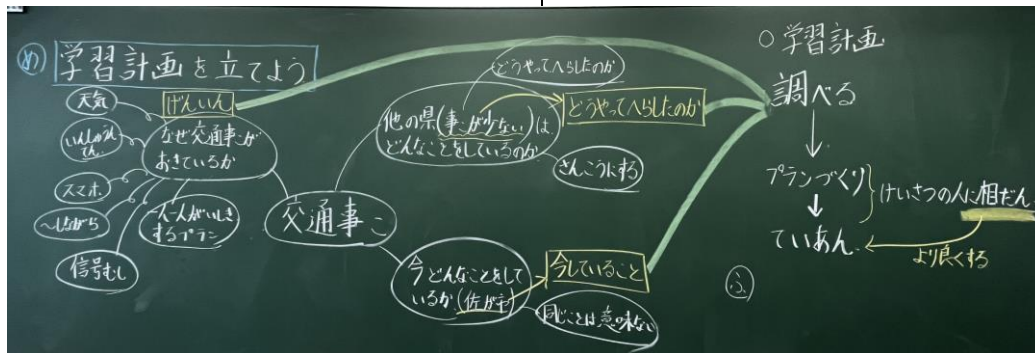


写真2 児童の疑問から作成したイメージマップと学習計画

※パフォーマンス課題を意識した振り返りも見られた。また、「佐賀市の交通事故を減らすために、プラン作りをしなければいけないと思いませんか」という質問に対しては、1時目のときよりも「とても思う」と回答する児童が増えていた(表3)。児童の思いに沿って学習計画を立てることで、単元のゴールを明確に意識することにつながったと言える。

表3 児童の意識調査(2時目)

とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
23人	9人	0人	0人

【児童の振り返り】

- ・事故を減らすための方法を考え、役に立つように提案をたくさんしたい。
- ・交通事故を減らすためにプラン作りを頑張りたい。
- ・佐賀市ではどんな事故が多いのかを調べて、事故を減らしたいです。
- ・なぜ事故が起こるのかというところが大切だと思った。

3 ○資料をもとに、交通事故が起きた際の対応や、交通事故を防ぐための施設や設備について調べる。  
※交通事故発生時の3つの資料を比較しながら、共通点や違いに着目し、熱心に資料の読み取りをしていた。



写真3 ロイロノートを使って資料を読み取っている児童

○資料から分かることを交流し、通報は通信指令室に集められ、関係諸機関が連携して交通事故に対処していることを確認した。  
※「調べる」段階に入っても児童の課題意識は低下することなかった(次頁表4)。1時目にパフォーマンス課題を設定したことで、目的を明確にもち、意欲的に学習に取り組むことができていた。

○児童が手元で自由に資料を拡大できるように、ロイロノートを用いて資料配布を行った(写真3)。

【児童の言葉】

- ・どの資料にも警察の人がいる。交通事故だから警察の人はくるはずだよ。
- ・あれ? どうして消防車も来ているの。
- ・3つ目には救急車も来ているよ。けがした人がいるのかな。

○関係諸機関の連携に気付くことができるように「110番の仕組み」の資料を配布し、分かることは何か尋ねた。

【児童の振り返り】

- ・交通事故を防ぐためのものがこんなにあるなんてびっくりしました。
- ・交通事故を防ぐためのものがあっても、交通事故は起こっているから、早く警察の人にプランを提案して交通事故を減らしたいです。
- ・いろいろな立場の人がかけつける仕組みや、交通事故を防ぐ設備があるのに交通事故が多いから、交通事故を減らすためのプランを考えようと思いました。

調べる



表4 児童の意識調査（3時目）

とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
32人	2人	0人	0人

パフォーマンス課題を意識している振り返りが見られた。

- 4 ○人々の安全なくらしを守るために、警察の人がどんなことをしているのか調べる。  
 ※資料から読み取ったことを友達と確認する姿が見られた。そのことが、さらに詳しい読み取りにつながっていた。児童の課題意識についても、「とても思う」と答えた児童が5人少なくなったものの、全員が肯定的な回答をしていた（表5）

表5 児童の意識調査（4時目）

とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
27人	7人	0人	0人

- 交通事故への対応以外の仕事に気付くことができるように、「交番に勤める警察官の1日」の資料を配布し、分かることは何か尋ねた。

【児童の言葉】

- ・24時間働いているよ。
- ・1日に何度もパトロールをしている。
- ・一人暮らしのお年寄りの家を訪ねているね。

【児童の振り返り】

- ・今日は警察の人の仕事は大変ということが分かりました。

- 5 ○佐賀市における交通事故の原因について調べる。  
 ※資料から佐賀市では、交差点で事故が多いこと、追突事故が多いこと、高齢者が原因となっていること、夕方に多いことなどを読み取っていた。  
 ○交通事故を防ぐために、警察や市がどのような対策をしているのか調べる（写真4）。



写真4 資料の読み取りを行っている児童

- 交通事故の原因が分かる資料を作成し、警察や市の取組とその目的との関係に気付くことができるようにした。  
 ○交差点のイメージがわくように、市内で交通事故が多い交差点の写真を掲示した。普段よく通る交差点で交通事故が起きていることを知り、交通事故を減らすことに切実感を抱いていた。

【児童の言葉】

- ・ここ知っている！習い事の場所の前だ。
- ・学校の近くだよ。交通事故を減らさないと、私たちがいつか交通事故に合うかも。

- 警察や市役所のホームページの閲覧だけでなく、リーフレットや広報用のクリアファイルの実物を用意することで、警察や市役所の取組に対する理解が深まっていた。

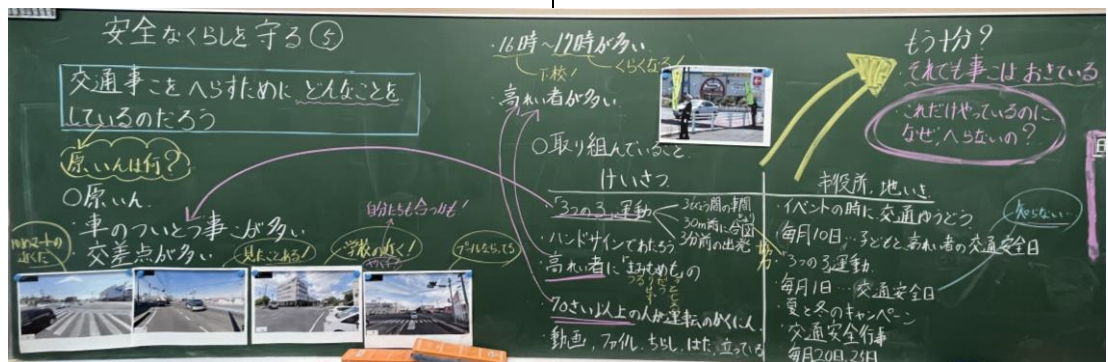
【児童の言葉】

- ・警察がしている「3つの3運動」は追突事故を防ぐことにつながるね。
- ・「3つの3運動」は市役所のホームページにもあったよ。一緒にしてるんだね。
- ・高齢者の「まみむめも」は高齢者が原因の事故が多いからだね。
- ・たくさんの取組をしているのに、どうして交通事故は減らないんだろう。

※たくさんの取組を行っているにも関わらず、佐賀市における交通事故が増加傾向であることを再確認することで、「これだけやっているのに、なぜ減らないの」という深まった問いが生まれ、プランをつくることの重要性を感じていた（表6）。

表6 児童の意識調査（5時目）

とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
27人	5人	0人	0人



【写真5 4時目の板書】

6 ○交通事故を減らすために、他地域ではどんな取組をしているのか調べる。  
 ※前時に学習した佐賀市内における交通事故の原因を踏まえた発言が多く見られた。児童の課題意識について、本単元で初めて「あまり思わない」と回答した児童がみられた(表7)。振り返りから、上手く他地域の取組を調べることができなかつたことが原因であり、切実感がなくなったわけではないと分かった。

表7 児童の意識調査(6時目)

とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
29人	2人	1人	0人

○児童がたくさん事例に出合えるように、どんな言葉で検索をすればいいか学級全体で確認を行った。

【児童の言葉】

- ・交通事故のランキングで47位の県の取組をまねできないかな。鳥取県から調べよう。
- ・交差点での交通事故が多いから、交差点での交通事故を減らす方法がないか調べよう。
- ・交通事故の原因になる人は高齢者が多かったよね。防ぐ方法はないかな。

○児童が見つけた交通事故を減らすための方法を交流し、「佐賀市が取り組むべき方法はどれだろう」という選択・判断の問いを設定した。

高める

7 ○市内の交通事故を減らすために、どんなプランに取り組むべきなのか考える。  
 ※佐賀市の交通事故の特徴を踏まえてそれぞれの方法を思考ツールの座標軸を使って整理することができていた。  
 ○自分が評価したことを示しながら、友達と交流する(写真6)。



写真6 ロイロノートを使って交流する児童の様子

※3つのプランに絞った後に最初の選択・判断を行ったが、理由には「事故が減りそうだから」「佐賀県にはまだないから」といった根拠がないものも見られた。児童の課題意識は以下の通りであった(表8)。

表8 児童の意識調査(7時目)

とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
28人	6人	0人	0人

○前時に児童から出た交通事故を減らすための14個の方法の中から、LPに提案するものを絞るために、ロイロノートにある座標軸を活用した。14個の方法を評価するために、「一人で行えるかどうか」、「佐賀県の課題に合っているかどうか」という2つの観点を示した。

【児童の言葉】

- ・一人で行えるものは簡単そうだけど、あまり事故は減らなそうだね。一人ではできないことは、警察と協力するんだよね。大きなことができそうだから、事故もたくさん減りそう。
- ・たしかに。踏切事故は多くないから、踏切を立体にするのは佐賀市には合っていないね。

○児童の言葉から、交通事故が減るのかという【効果】の視点が必要であることを確認した。また、LPは時間がかかっても、本当にできそうなのかという【実現可能性】も重要だと考えていたことを伝え、追究の視点を意識してプラン作りができるようにした。

○児童の意見を基に、プランを「ドーナツ交差点」「サポートカー限定の免許」「道を緑にして白い字で『追突注意』と書く」の3つに絞った。

8 ○児童の希望を基にグループをつくり、追究の視点にそってプランについて話し合う。  
 ※クラスの保護者にアンケートをとって認知率を調べるなど、根拠を示しながらプラン作りを行おうとする姿が見られた。  
 ※LPから指摘された課題を伝えることで、児童は「それなら、～したらいいと思う」などと意欲的に改善策を考えていた。このように、単元の中にLPとの関わりを複数回もたせることで、学習意欲を継続させることができたと言える(表9)。

表9 児童の意識調査(8時目)

とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
31人	3人	0人	0人

○根拠を示せるように資料を探すように促した。

【児童の言葉】

- ・佐賀がしているブループロジェクトの青色よりも、緑色の方が見やすいということが分かったら佐賀でもやってもらえると思う。
- ・本当に事故が減っていることを教えたなら、警察の人もやってくれる。

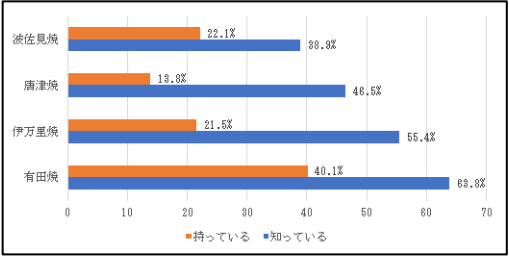
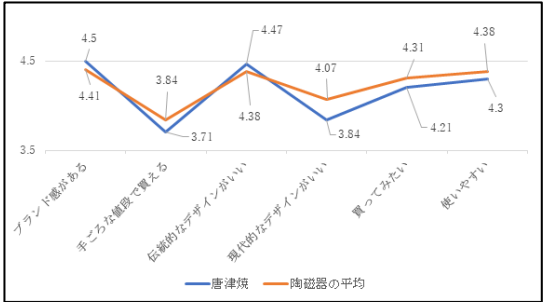
○3つのプランが決まった時点でLPに連絡を取り、指摘された課題点を児童に伝えた。

【児童の振り返り】

- ・プラン作りをして、あらためて早く事故を減らしたいと思いました。

4年生 県内の特色ある地域 焼き物づくりが盛んな唐津市

本時までの流れ

段階	時	主な学習活動 (○)、児童の様子等 (※)	教師の働きかけ (○)、児童の言葉 ( )
つかむ	1	<p>○唐津焼の知名度と所持率、消費者が唐津焼に抱くイメージに関する資料を見て、気付いたことを書く。</p> <p>※唐津焼は知名度が高いにも関わらず、所持率は有田焼に比べて約3分の1になっており、消費者は高価で普段使いがしづらというイメージを抱いているという現状を捉えることができた。</p> <p>○パフォーマンス課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>唐津焼は、知名度は高いが、高価で普段づかいが難しいというイメージをもたれている。唐津焼をより多くの人に使うために必要なプランを考え、唐津焼をより多くの人に使うために必要なプランを考え、唐津市役所唐津焼振興室の方に提案しよう。</p> </div> <p>※資料から唐津焼の現状を捉えることができていたので、想定していたパフォーマンス課題に近い言葉が児童から出され、その後の唐津市役所唐津焼振興室(以下、LP)の話によって児童の学習意欲がさらに高まった。</p> <p>※ほとんどの児童の振り返りにおいて、はやくプランを考えたいという記述が見られ、具体的なプランを考え始めている児童もいた。唐津焼という児童にとって、身近なものではない題材であっても抱えている課題を解決したいという思いを抱かせることができたと言える。</p>	<p>○唐津焼の現状に気付くことができるように唐津焼の知名度と所持率(図1)、唐津焼に対するイメージ調査(図2)の結果等を提示した。</p>  <p>図1 唐津焼の知名度・所持率</p>  <p>図2 唐津焼に対するイメージ調査の結果</p> <p>○オンラインでLPと繋がり、「4年1組のみんなに唐津焼をより多くの人に使うために必要なプランを考えてほしい。」という話を聞く時間を設けた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【児童の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>唐津焼は日本遺産にも登録されているすごい物なので、もっとたくさんの人に使ってもらいたい。はやくプランを考えたいです。</li> <li>若い人に買ってもらえるようなデザインを取り入れるプランはどうかと思いました。</li> </ul> </div>
	2	<p>○唐津焼に対する疑問をつなぎ、イメージマップをつくる。</p> <p>※イメージマップを作成し、類似した疑問をまとめて問いの形に整理することで、パフォーマンス課題の解決に向けての見通しをもつことができた。</p> <p>※パフォーマンス課題を意識した振り返りも見られた。</p>	<p>○児童の思いを基に学習計画を立てるためにノートに記述したことや、友達の見解を聞いて思いついたことからイメージマップを作った。類似した内容を同じ色で囲んで、見出し付けることで、見通しをもてるようにした。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【児童の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>唐津焼の作り方や特ちょうを調べて、よいプランを考えたいです。</li> <li>早くれき史を調べたい。れき史を調べれば、唐津焼のすごさが分かると思います。</li> <li>作り方が一番気になりました。しょく人さんの技が唐津焼の大きなみ力だと思えます。</li> </ul> </div>



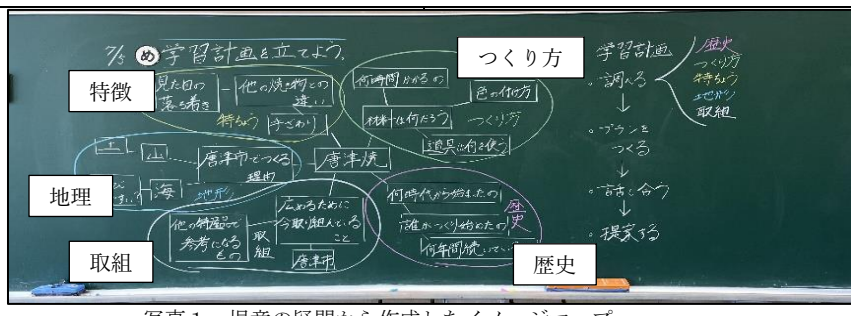


写真1 児童の疑問から作成したイメージマップ

3 ○唐津焼にはどのような特徴があるのか、有田焼と比べることで調べる。



写真2 唐津焼と有田焼を比べている児童

○唐津焼は粘土を材料にしている陶器であること、素朴で土を感じさせるような手触りが特徴であることを確認する。

○佐賀県立九州陶磁文化館の職員を招き、400年前の唐津焼と300年前の有田焼に直接触れることができるようにした。

**【児童の言葉】**  
 ・400年前の唐津焼も300年前の有田焼もすごい高そう。割らないようにしないと。  
 ・唐津焼は触った感じがざらざら。有田焼はつるつるしている。  
 ・唐津焼は家で使っているお茶碗と色と触った感じが全然違う。

**【児童の振り返り】**  
 ・唐津焼の歴史の長さや伝統を守ってきた人の気持ちを考えると、もっとたくさんの人に使ってほしいと思いました。

4 ○なぜ、唐津市では唐津焼が盛んになり、どのように受け継がれてきたのか調べる。

※副読本やパンフレット、年表から読みとったことを友達と確認する姿が見られた。そのことが、さらに詳しい読み取りにつながっていた。

○唐津焼の歴史的な背景に気付くことができるように、年表(表1)を配付した。

**【児童の言葉】**  
 ・有田焼よりも30年以上も前から唐津焼は作られている。  
 ・磁器が登場すると、唐津焼の生産が落ち込んだ。  
 ・12代中里太一郎右衛門さんの努力のおかげで唐津焼を取り戻した。

代表的な歴史	西暦	唐津焼の歴史
【肥前朝山時代】	2200	肥前朝山で、陶器が生まれる。唐津焼の歴史が始まる。
肥前朝山、全国を平定し、天下を統一する	1580	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1582	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1583	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1584	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1585	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1586	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1587	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1588	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1589	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1590	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1591	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1592	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1593	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1594	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1595	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1596	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1597	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1598	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1599	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1600	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1601	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1602	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1603	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1604	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1605	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1606	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1607	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1608	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1609	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1610	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1611	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1612	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1613	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1614	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1615	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1616	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1617	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1618	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1619	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1620	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1621	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1622	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1623	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1624	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1625	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1626	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1627	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1628	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1629	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1630	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1631	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1632	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1633	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1634	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1635	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1636	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1637	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1638	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1639	
肥前朝山、肥前朝山への出兵の全軍を指揮する	1640	

調べる

5 ○唐津焼の窯元はどのようなところにあるのか唐津市の地理的条件と唐津焼の関係を調べる。



写真3 資料の読み取りを行っている児童

○唐津市の地理的条件と唐津焼の窯元の位置との関連に気付くことができるように、唐津市の地形図と唐津焼MAPを配付した。

**【児童の振り返り】**  
 ・MAPを目印に地形図に赤いシールをはっていくと、かま元がどんなところにあるのか分かって、楽しかった。  
 ・唐津の中心部にかま元があるのは、お客さんが買いにきやすいからということも分かりました。  
 ・山あいで作って、唐津市の中心部で売るのがベストだと思いました。

	<p>6 ○どのようにして唐津焼が作られているか調べる。</p> <p>※インタビュー記事(図3)や動画を見たことで、陶工たちのもつ技や伝統的な作り方、ガス窯や電気窯を使った新しい作り方に気付くことができた。</p>	<div data-bbox="885 156 1093 593" data-label="Text"> <p>【児童の言葉】          ・唐津焼の面白ところは、作っても変化する中で起こる土づくりが大変そう。          ・中里健太さんが蹴ろくろのすごい。3分くらいでお茶碗の形になった。</p> </div> <div data-bbox="1101 156 1428 638" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">図3 陶工へのインタビュー記事</p>
	<p>7 ○唐津焼を多くの人に使ってもらうために唐津市が取り組んでいることを調べる。</p> <div data-bbox="295 772 845 873" data-label="Text"> <p>深まった問い 唐津市はこれだけやっているのに、なぜ唐津焼を使う人は増えないのだろう。</p> </div> <p>○パフォーマンス課題を再度確認する。</p> <p>※たくさん取組を行っているにも関わらず、唐津焼を購入して使う人がなかなか増えていない状況を再確認することで、プランをつくる重要性を感じていた。</p>	<p>○これまでの学習の中で出てきた唐津市の取組について尋ねたり、取組を資料化したものを紹介したりした。</p> <div data-bbox="885 828 1093 1064" data-label="Text"> <p>【児童の振り返り】          ・イベントをしたり、YouTubeで紹介したりと唐津市では唐津焼をより多くの人に使ってもらうためにたくさんのお力をかけていると分かった。          ・今取り組んでいることをパワーアップする方法もプランになると思う。</p> </div>
	<p>8 ○特産品を広めるために、他地域ではどのような取組をしているのか調べる。</p> <p>※調べる際のポイントを尋ねたところ、「効果がありそうなもの」「唐津焼にも使えそうなもの」という2つを挙げていた。</p>	<p>○他地域の事例を資料化し、紹介した。</p> <div data-bbox="885 1176 1093 1377" data-label="Text"> <p>【児童の振り返り】          ・工芸品のレンタルは、唐津焼にも使えると思いました。買おうかまよっている人にはぴったりのプランだと思う。          ・有田焼が人気キャラクターとたくさんコラボしていたけど、唐津焼でやったらたくさん売れるかなと思いました。</p> </div> <div data-bbox="885 1388 1093 1456" data-label="Text"> <p>選択・判断の問い 唐津市が優先すべき取組は何だろう。</p> </div>
<p>高める</p>	<p>9 ○唐津焼をより多くの人に使ってもらうためには、どのようなプランが有効なのか考える。</p> <div data-bbox="295 1624 845 2004" data-label="Figure"> </div> <p>写真4 プランを選択した際に用いた座標軸</p>	<p>○「どのプランが一番唐津焼を使う人が増えそうか〔実効性〕」を一番に考え、「本当にできるのか〔実現可能性〕」を踏まえて話し合うことで「有名な Youtuber に紹介してもらおう」「唐津焼を借りてお茶碗」「唐津焼のガチャガチャをいろいろな場所に」「唐津焼×お茶のイベント」の4つに絞った。なお、「唐津焼×お茶のイベント」は、10時間目を経て「食事×唐津焼×生け花のイベント」に名前が変わる。</p>



10	<p>○同じ取組ごとに話し合い、追究の視点を基にプランについて話し合う。</p>  <p>写真5 プランの中身を検討する児童</p>	<p>○根拠を示せるように資料を探すように促した。</p> <p>【児童の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までのイベントでは、どれぐらいの人が来たのだろう。去年は475人。</li> <li>・輪島塗のサービスは何人利用したのかな。</li> <li>・唐津焼の500円のカチャガチャは2日間で36個売れていたね。場所を変えたらもっと売れるかな。</li> </ul>				
11	<p>○唐津焼をより多くの人に使ってもらうために必要なプランについて議論(A対B)を行う。</p> <p>【A:唐津焼のカチャガチャを駅や空港に】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントで唐津焼のカチャガチャを置いた際は、2日間で36個が売れている。唐津市で実際にやっている取組なので、実現可能性は高いプランだし、博多駅や福岡空港などたくさんの利用者がいる場所にカチャガチャを置けばもっとたくさん売れると思う。値段は1つ500円で販売する。</li> </ul> <p>【B:唐津焼を借りてお試し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪島塗のレンタルサービスを参考に唐津焼のレンタルサービスを行う。唐津焼では、毎月同じ金額で利用できるようにする。最初に必要な金額を抑えることができれば、もっと気軽に唐津焼を使ってもらえると思う。使ってもらえば、唐津焼の良さが伝わり、唐津焼を使う人が増えると思う。</li> </ul> <p>※1回目の議論から、追究の視点にそった立論や質問をすることができていた。</p>  <p>写真6 Bプランについて説明する児童</p> <p>○議論の後、AとBのどちらのプランがより効果的であるか選択・判断する。</p> <table border="1" data-bbox="303 1780 837 1881"> <tr> <td>Aを選択した児童</td> <td>Bを選択した児童</td> </tr> <tr> <td>21人</td> <td>14人</td> </tr> </table> <p>※全児童が選択・判断の理由の中に追究の視点を入れることができていた。一方でその根拠に関する記述ができていない児童も5名いた。</p>	Aを選択した児童	Bを選択した児童	21人	14人	<p>○根拠を示しながら説明したり、追究の視点を基に質問したりするように促した。</p> <p>【Aに対する質問とその答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅や空港に置いて本当に売れますか。 [実効性]</li> <li>→地元の人だけでなく、旅行者もターゲットにしている。</li> <li>・1つ500円は高いのではないか。 [実効性]</li> <li>→唐津焼は手づくり、今の値段より安くすることはできない。</li> </ul> <p>【Bに対する質問とその答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスはどのように知らせるのか。 →HPで知らせる。</li> <li>・使った唐津焼を別の人に貸し出しことはできるのか。水分がしみこむはず。 [実現可能性]</li> </ul> <p>○返答に困った際、現行の振興策との違いや費用の比較等が話題になった際は、LPにも意見を求めた。</p> <p>【Aに対する賛成・反対意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅や空港に設置するのに賛成です。たくさんの人に買ってもらえるから効果があると思う。</li> <li>・カチャガチャに入るサイズだと、小さいサイズの唐津焼になる。使ってもらえるか心配だから反対。</li> </ul> <p>【Bに対する賛成・反対意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・唐津焼を試す機会としては、良いプランだと思う。</li> <li>・このプランには、輪島塗のLIFTのような新しい会社が必要だから実現可能性は低いと思います。</li> </ul> <p>○CグループとDグループの児童がAプランとBプランを評価できるようルーブリックを用いた。</p> <p>【児童の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いがとても楽しかった。</li> <li>・どちらのプランにも良い面と悪い面があった。</li> <li>・ぼくたちが考えたプランを唐津市も最近考え始めていたということにびっくりしました。</li> <li>・Aのプランは、実効性と実現可能性について資料を使って説明できていた。</li> </ul>
Aを選択した児童	Bを選択した児童					
21人	14人					